TITLE:

西田さんとの思い出

AUTHOR(S):

ミタニ, ジョン C

CITATION:

ミタニ, ジョン C. 西田さんとの思い出. Pan Africa News 2011, 18(特別号): 7-7

ISSUE DATE:

2011-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/147309>

RIGHT:

Copyright © Pan Africa News.

ろを訪れていました。自然とお二人を招待することになり、その後の夕食会は私の家で行うことになりました。私は西田先生とお会いできて興奮していたのですが、自己紹介の後あまり会話が弾まなかったのは少し残念でした。(私は当時、伝統的な日本のエチケットについてあまり知らなかったのです。)

そのような次第だったので、我々二人とも参加した次の国際会議のとき、私は少々驚いてしまいました。西田先生は私の興味と関連する論文の束を持って現れ、セントアンドリュースでの私の歓待にお礼をしてくれたのです! そのときの会話の中で、私は先生にマハレ山塊国立公園を訪問することは可能かと非常におずおずと尋ねたのですが、どうも部分的に誤解されたらしく、トシはなんとマハレでの調査許可をくださったのです!

今思うに、私は相当びっくりしましたが、とても嬉しかったのです。当時、私は一度も野生の類人猿を見たことがなく、一種の霊長類を研究した経験があるだけでした。その後アイデアを見つけるために二年間勤勉に勉強し、1984年には妻のジェンとともにマハレでチンパンジーの発声行動について調査をすることができました。それはあまり成功したプロジェクトとはいえないかもしれませんが、その後の私の類人猿研究のキャリアに繋がっています。その意味で、トシにはとても感謝しています。もはやトシがあ那时的誤解に気づいているのか知ることでもできませんが、私たちは会議では頻繁に会い、そして良き友人であり続けました。彼の死は悲しい損失です。

(翻訳: 浅井 健一郎)

れています。しかし、私たちがその晩カンシアナで食べたニワトリが、日本と同じような方法でカシハの村で育てられたとは思えません!

結局のところ、私たちの友情は素晴らしいものでした。それは、トシが亡くなる前に私に送ってくれたメールの中にあった最後の言葉でした。そのときは、それが最後のやり取りになるとは思っていませんでしたが…。トシは、いつも弱みを見せることを嫌い、どれだけ苦しんでいるかを、決して私には見せませんでした。トシの強靱な性格、そして信用とお互いへの尊敬や賞賛の上に成り立っていたトシとの強い友情を、私は決して忘れません。トシを失い悲しみでいっぱいです。

(翻訳: 井上 英治)

西田さんとの思い出

ジョン・C・ミタニ
ミシガン大学

「私が直してみましよう。」そう言って私がカンシアナキャンプでホンダの発電機を分解し始めるのを、トシは怪訝そうにそしてとても用心深く見ていました。私はボルネオで同様の発電機を長年使用していたので、その修理方法を知っていました。私は素早く汚れを取り除き、直しました。後に、濱井美弥さんが教えてくれたのですが、私が想像していた以上に西田さんは心配されていたようです。どうやら、今西先生のグループがタンガニイカ湖畔において最初に野生チンパンジーの研究を行なったことで有名なカボコで、発電機が故障した際に伊谷先生が大変お困りになったという昔話があったようです。

おそらく、私が最初のマハレでの調査の際に発電機を直せたことで、トシは私を気に入ってくれたのだと思います。しかし、私は他にも理由があったと思っています。私たちはフィールドワークに対する変わることのない情熱を持っていて、お互いそのことを尊敬しあうようになっていました。そして、彼が私を信用するようになったのと同時に、私も彼を無条件に信用していました。振り返ってみると、中には信用すべきでないものもあったのかもしれませんが。彼が調査地で生のニワトリを食べると説得したときがそうでした。彼は大丈夫だと保障してくれましたが、日本で生食されるニワトリは特別に衛生的な方法で育てら

西田利貞氏の思い出

クレイグ・スタンフォード
南カリフォルニア大学

はじめて西田利貞氏に会ったのは1991年10月のことで、私がマハレ国立公園の調査キャンプを訪れた時のことでした。私たちは連絡を取り合って数ヶ月というところで、私がまだチンパンジー研究の世界では比較的新しい人間だったにも関わらず、彼は丁重に私を迎え入れてくれました。こうして私は、ゴンベでの調査後の休暇を、彼とともに一週間ほど過ごしたのでした。フィールドでの彼を知り、彼が長年訓練してきたアシスタントや学生と一緒に日々マハレのチンパンジーを追う彼について回ることは、本当に畏敬の念を起させる経験でした。ある雨の日に、土砂降りの中でチンパンジーたちがレイン・ダンスするのを座って見ていたのを思い出します。それはとても強い雨で、私たちが腰を下ろしている斜面が洗い流されてしまうのではないかと思うほどでした。西田博士がこの天候ではこれ以上観察できないと判断して、ようやく私たちがキャンプに帰ることになったころには、川は増水し、渡る際に脚が押し流されそうになっていました。彼とフィールドを共にする中で、私は彼が霊長類学を超えて様々な知識を持っていることを知りました。どのキノコがおいしくてどのキノコに毒があるのか、そして寿司にするにはタンガニイカ湖のどの魚がいいのか…。

2010年のIPS京都大会でも西田博士にご挨拶する機